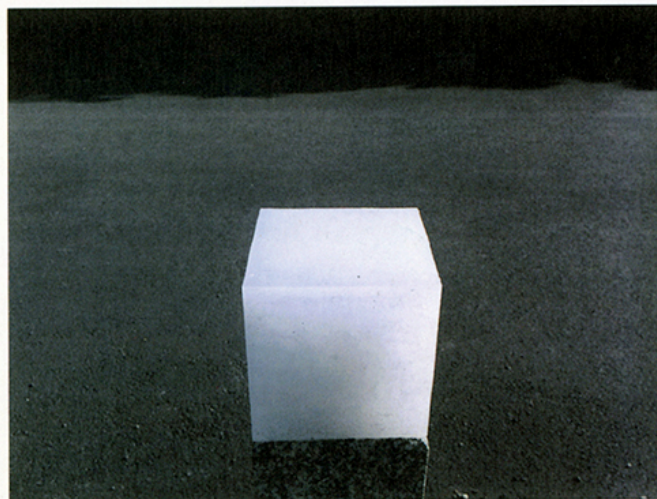


空間の治癒力

YUTAKA TSUCHIYA
SHUJI MIZUTOME

1995 11.27mon - 12.9 sat
a.m.11:30 - p.m.7:30
closed on sunday

GALLERY
SURGE



「空間の治癒力」

私が作品をイメージする時に思い浮かべる空間は、何も存在しない四角い、超現実的な四角い箱である。それは、その空間に何を埋めていくのか、何を隠していくのかという「空」を見つめ、《ヴィジョン》（幻視力）を働かせ、私自身が想像する瞬間に、まず、生まれる空間である。さてこの空間に作品を設置する時、あるいは作品の内側に空間を設置する時、造形素材としてparaffinを多く使用する。この半透明な素材に魅入られる。この光を柔らかく透過する素材をあえて使う。これは「見る」という欲望に深くかかわるなにかである。閉ざされている、隔てられている壁の向こう側の世界を見たいという《ヴィジョン》（幻視力）を働かせて、この半透明な物質のうちに私は私自身の見る欲望を一個のオブジェとして手に取るのだ。

土屋 穰

人類は洞窟を捨て、住む家を創った。
以来、全ての人々がより快適な空間を求めて歴史を重ね、永遠のテーマとしている。
空間には治癒力がある。

今度の阪神大震災も、住まいがいかに大切なものかを赤裸々に物語った。人間の精神は常に、重い身体に閉じ込められ緊張を強いられている。修行者は、最もミニマルな静寂空間で瞑想をして精神の解放を求める。労働者は休日に何もせずゴロゴロとして空間と戯れる。しかし追い詰められた者の周辺には、ニュートラルな空間は存在しない。教会、病院、戦場、被災地、監獄、出口のないこれらの空間は生と死が交錯する場である。恐らく、その精神の危機に瀕して人は泣き、叫び、やがて宗教心に昇華する。混乱を脱した静かな病室は、まさに身体と共振して鉛のようになった精神の回復に寄与する。そして教会では十字架に集中する信者に、刻々と変化する窓の光が降り注ぎ精神を浄化する。さらに最も象徴的なのは、あの原爆ドームの空間である。ゆがんだ骨組みだけがわずかに形を留めるその空間は、全ての人類の眼差しに向けて永遠に重罪を語り継ぐ。

私はこの数年、スプーンをテーマにしている。スプーンは人の生命を支える者として、その小さな空間に食物や薬をすくいあげ人々の身体と魂を育み癒してきた。この生命の象徴ともいべきスプーンの空間を病室、教会、原爆ドームに置いて空間の治癒力を醸成してみたい。

水留 周二

空間の治癒力 土屋 穰・水留周二 展

1995年11月27日(月)～12月9日(土)
open 11:30 a.m.～7:30 p.m. 日曜休廊



GALLERY
SURGE

〒101 東京都千代田区岩本町2-7-13 渡辺ビル1F
Tel. 03-3861-2581 Fax. 03-3861-2582